

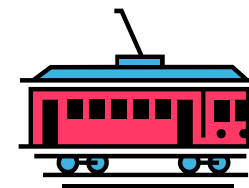
環境配慮行動の障壁を知る：日独におけるフォーカス・グループの実施

安藤香織・広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼
進・依藤佳世・大友章司・前田洋枝・
Anke Bloebaum・ Ellen Matthies





研究の背景

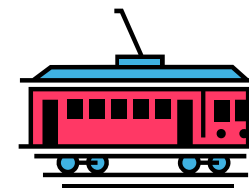


- 文化比較研究では、個人主義—集団主義、自己観の違いに関する研究など数多く行われている。
- 環境配慮行動の文化間比較は、これまであまり行われていない
 - 環境配慮行動にも、規範の違いなどが影響を及ぼすのだろうか。
- しかし・・・
 - 環境配慮行動といっても、それによって想起される内容が国によって違う
 - 行動を実行するための難易度が国によって違う
- →まず、質的な検討が必要



2002年 大学生対象の調査

(安藤・大沼・Blebaum・Matthies, 2005)



● 方法

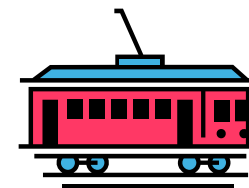
- どのような行動を環境配慮行動として認知しているか、自由記述をしてもらう。

● 結果

- ごみ関連行動は日本の方が想起する人が多い。交通行動はドイツの方が2倍近い。
- 国によって、環境配慮行動の意味に違い。



2003年 日独の一般市民を対象とした質問紙調査



(今年度社会心理学会で発表予定)

● 目的

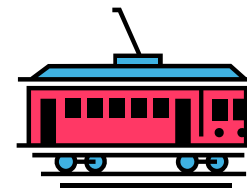
- 日独での環境配慮行動の規定因の違いを検討する。

● 方法

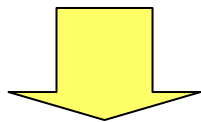
- 行動: ごみ減量行動(使い捨て商品を買わない)、交通行動(近い距離は車に乗らない)、市民活動
- 名古屋市とケルン市で調査を実施



再び疑問点



- 行動統制感(〇〇を行うのは易しいー難しい)はどちらの国でも重要な規定因
- 国によってどういう点が難しいかは異なるのではないか。

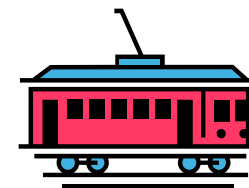


- それぞれの国で、フォーカス・グループによる検討



フォーカス・グループとは

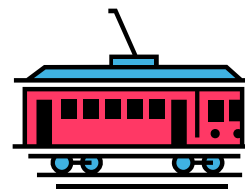
(Vogt, King & King, 2004)



- ある特定のテーマについて、進行係がリードするグループ・ディスカッションを行い、その中のやりとりを記録する。
- ある概念についての理解を深めたり、質問項目を開発するために使うことができる。



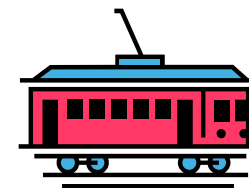
フォーカス・グループの実施方法



- 実施時期：2004年6月
- 実施場所： 名古屋（日本）、ケルン（ドイツ）
- それぞれの都市の居住者に参加を呼びかける。
- 参加者：名古屋 27名（男性10名、女性17名）、ケルン 25名（男性10名、女性15名）
- 交通とごみ問題の2グループに分かれてディスカッション
- 所要時間：約2時間



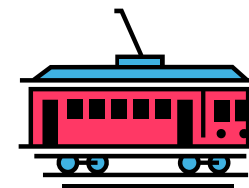
ディスカッションのテーマ



- 交通グループ
「日常生活の中で 1)公共交通機関を使うことと 2)車を使うこと について、どういう点が難しいと思いますか」
- ごみグループ
「日常生活の中で、 1)使い捨て商品を買わないようにするなど、ごみを減らすこと 2)ごみを正しく分別すること について、どういう点が難しいと思いますか」



ディスカッションの流れ



- 質問の答えをカード(ポストイット)に書く
- それぞれ自己紹介をして、カードに書いたことを説明
- カードをカテゴリー分けする(集団でKJ法)
- 重要と思うカテゴリーにシールを貼ってもらう。(重要度の投票)
- ポジティブ・アイデア・ラウンド
 - どのような点が変わると、自分はもっとごみを減らせそうだと(公共交通機関を使うようになるか)と思いますか。
 - 最後にポジティブな方向づけをするために実施。



1314

A

B

・7月15日 随分

A

B

・10月

公共交通



バス
本数が少ない

(バス)
多量かつバスはバス
時刻表
(時間やバス)
バスはバスはバス
バスはバスはバス
バスはバスはバス
バスはバスはバス

本数が少ない
時刻表 (時刻表はバスはバス)

バスはバスはバス
バスはバスはバス
バスはバスはバス
バスはバスはバス
バスはバスはバス
バスはバスはバス

市バスはバスはバス
時刻表 (時刻表はバスはバス)

下りのバスはバスはバス
時刻表 (時刻表はバスはバス)

馬車はバスはバス
時刻表 (時刻表はバスはバス)

馬車はバスはバス
時刻表 (時刻表はバスはバス)

料金
バス

料金は高い
(バスはバスはバスはバス)

料金は高い
(バスはバスはバスはバス)

料金は高い
(バスはバスはバスはバス)

料金は高い
(バスはバスはバスはバス)

料金は高い
(バスはバスはバスはバス)

料金は高い
(バスはバスはバスはバス)

バス+電車
時間

バス+電車
時間

バス+電車
時間

バス+電車
時間

バス+電車
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

バス
時間

ごみ減量の障壁

＜名古屋＞

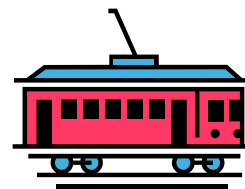
- 企業が利益優先(カード11、シール15)
 - unnecessary包装が多い
 - 紙皿など、ゴミになるものをたくさん売っているのを見ると無力感を覚える
 - 野菜や卵などのプラスチック・トレーを減らせない
- 便利で使いやすい(カード10、シール11)
 - 子どものオムツは使わずにいられない
 - 使い捨てコンタクト
 - レジ袋は便利
- 消費者の意識が低い(カード7、シール8)
 - 物を大切にする意識がなくなった
- 修理すると高い(カード2、シール3)

＜ケルン＞

- 他の選択肢がない(カード3、シール7)
 - 環境に配慮した包装の選択肢がない
 - 他の選択肢がない時だけ(使い捨てを)買う
- コスト(カード3、シール6)
 - 使い捨てでないものは値段が高い
 - 時間がかかる
- 社会の問題(カード2、シール4)
 - 商品の寿命が短い
 - 修理が難しい
- 消費者の怠惰(カード1、シール3)
- 避けられない(カード2、シール1)
 - 生鮮食料品はパックされている
- その他



ごみ減量についてのまとめ



- 名古屋では、企業の責任を指摘する意見が多かった。
 - ドイツでは、社会の問題として指摘
- 便利さ(コスト)、消費者の意識は名古屋、ケルンの両方で共通して指摘されていた。
- 名古屋では、使い捨て商品として挙げられたものにバラエティがあった
 - (例:紙皿、はし、プラスチック・トレイ、紙オムツ、使い捨てコンタクト、レジ袋)
- ドイツでは、もともと店での過剰包装があまりない、使い捨て商品の種類が少ないなどの社会環境の違いがあると考えられる。

公共交通利用の障壁

<名古屋>

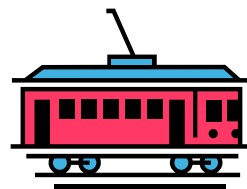
- 時間、乗り換え(カード16、シール15)
 - 時間が決められている
 - バスは予定の時間にこない
 - バスの乗り継ぎがうまくいかない
- バスの本数が少ない(カード6、シール7)
 - 本数が少ない
 - バスのルートが限られている
- 料金が安い(カード5、シール6)
 - 地下鉄の料金が安い
 - 家族でかけるとお金がかかる
- 駅のバリアフリー(カード4、シール5)
 - 下りのエスカレーターがない
 - 子どもを連れていけると大変
- その他
 - 乗客のマナー、駅の表示、バス停・駅までの距離、駐輪場

<ケルン>

- 時間 (カード8、シール7)
 - 待ち時間が長い
 - 本数が少ない
 - 乗り換えが多い
 - 移動に時間がかかる
- 物理的快適さ(カード9、シール6)
 - 悪天候の時に不快
 - 人が混雑している
 - 荷物を運ぶ時に不便
 - 空気が悪い
- 安全性(カード4、シール2)
 - 夜間に駅で待っているのが不安
 - 電車の安全性
- 料金(カード1、シール1)
 - 公共交通は高い
- その他
 - 他の人と会いたくない、コストが不明瞭



公共交通利用についてのまとめ

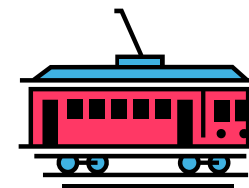


- 時間や乗り換えについての不満が、名古屋・ケルンとも1位で共通。
 - 名古屋では、特にバスの時間についての不満が多かった。
 - ケルンでは、乗り換えが多いことへの不満があった(路線が複雑)。
- 料金の問題は、ケルンでは重要度が低かった。
- ケルンでは、物理的快適さ、安全性についての不満が多く見られた。
- 名古屋では、駅のバリアフリーについての指摘があった。
- 交通問題については、名古屋とケルンで共通点が多かったが、都市によって課題は異なることが示唆。



フォーカス・グループの利点

(Vogt, King & King, 2004)

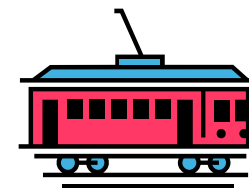


- 参加者が調査者の言葉に答えるだけでなく、参加者同士で相互にコメントを言い合う。
 - より自由で柔軟な表現
 - 項目作成において、より妥当な表現を探せる
- 1対1のインタビューよりも、類似の他者がいることでよりリラックスできる。
- 調査者が、母集団の中の対立する視点を理解しやすい。
- → 単なる1対1インタビューの合算ではない。



フォーカス・グループの欠点

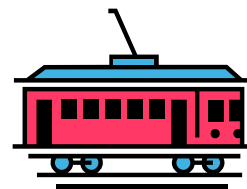
(Vogt, King & King, 2004)



- 進行係の態度によるバイアスが生じる。
- 支配的な参加者がいると全体が影響を受けてしまう。
 - 解決法: トピックについて必要な知識はあるが、目的を知りすぎていない人が進行係を行う。
- 参加者が限られる: 結果の一般化が難しい
 - フォーカス・グループは母集団全体の意見を代表するものではないことをはっきりさせる。



フォーカス・グループを実施してみても



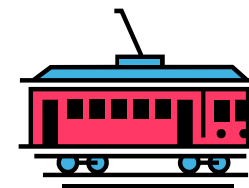
- フォーカス・グループに参加してもらうこと自体が、環境配慮行動への働きかけとして効果があるのではないか。
 - 「勉強になりました」「他の人の話を聞いて参考になりました」「他の人はどうやって公共交通を使っているか知りたくて参加した」という感想。
 - ポジティブ・アイデア・ラウンドで、「今日のように色々な人と意見交換する」というアイデア。
- 欠点に関して
 - 支配的な人がいるというより、最初は遠慮がちで緊張している人が多いので、リラックスして喋ってもらえるようにするのが難しい。



End



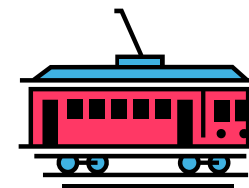
ポジティブ・アイデア・ラウンド (ごみ減量)



- 個人の意識の改革(6)
- 企業努力(5)
- ごみのリサイクル推進(4)
- 長く使える商品の選択(4)
- ごみの有料化(3)
- 環境教育(3)



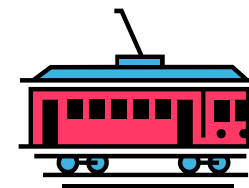
ポジティブ・アイデア・ラウンド (交通)



- 料金を下げる(7)
- 本数を増やすなど路線ルート为解决(6)
- バス専用道路の設置(5)
- 駅近くに駐車場の拡充(5)
- 新しい交通システム(4)
- バスの小型化(4)
- 乗り換え改善(3)
- ユリカのサービス(3)、市内同一料金(2)、新しい料金方法(2)
- 営業時間の拡大(2)



引用文献



- 安藤香織・大沼 進・Anke Bloebaum・Ellen Matthies (2005) 日独における環境配慮行動の認知についての社会心理学的アプローチ 環境情報科学, 33(4), 89-98.
- Vogt, D.S. King, D.W. & King, L.A. (2004) Focus groups in psychological assessment: Enhancing content validity by consulting members of the target population. *Psychological Assessment*, 16, 231-243.